

～ 「2歳未満のお子さんのマスク着用は危険」 に関連して

Q1)

日本小児科医会が「2歳未満の子供のマスク着用」について指針を発表した背景について、簡単に教えてください。

例：現場の医師へ親からの問い合わせが多かった。事故が起きる可能性がある。実際事故が多数報告されているからなど

A)

- ・小児科診療所でも乳児にマスクをされているケースが目につくようになってきた
- ・アメリカ CDC（疾病管理予防センター）、AAP（アメリカ小児科学会）ではすでに警告を公表しており、日本国内での情報周知が急務と考えた
- ・乳幼児突然死症候群（SIDS）のリスクは明らかに増すと予想される

Q2)

保護者向けに、これから暑くなる時期のマスクについての正しい情報のポイント（事故を防ぐための重要な注意点）

A)

まず、子どもの新型コロナウイルス感染症について、成人とは全く異なる状況であることを国民に伝えていただきたいと思います。

<これまでに分かった子どもの新型コロナウイルス感染症の特徴 >

http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=342

日本小児科学会まとめ（5月20日）

1. 国内外において子どもの感染者数は少ない
海外の小児の感染者
中国（2.4%）、米国（1.7%）、韓国10歳未満1.0%、10~19歳5.2%
国内の小児の感染者（2020年5月7日現在）
0-19歳：606名（3.9%）（人口に占める小児割合は17%）
2. 子どもは感染しても、無症状か軽症が圧倒的に多く、健康な子どもの重症例は少ない
国内の小児（0-19歳）の重症例：2/609（0.3%）←基礎疾患あり
海外（中国、シンガポール）（0-9歳）1/444（0.2%）
3. 感染拡大の主体は大人から子どもである
*これまで「子どもから大人」、「子どもから子ども」の伝播の報告は極めて少ない。
香川県の保育園（職員11人の感染で園児の感染は2/147）

富山市の小学校の事例（教師 1 名、生徒 5 名の感染）は学校内のクラスターでないと判断されている

海外での報告

オーストラリア

5つの学校で 18 人の感染者（9 人の学生と 9 人のスタッフ）が 863 人（職員 128 人、生徒 735 人）と濃厚接触→感染したのは 2 名のみ（小学生、高校生各 1 名）
フランス

症状のある 9 歳児が 112 名と濃厚接触後、感染者なし

国内でのこれまでの経験から

休園・休校中に開いていた保育園、学童保育などでの集団感染の報告なし

4 月の学校再開後も、子どもが発端の園・学校のクラスター発生の報告なし

感染した子どもには大人と同等のウイルス量が存在するので大人と同様に他に感染させる可能性はあるが、その強さについては不明

喉や鼻以外にも、便の中にウイルスが長く残る

以上より、

・子どもは新型コロナウイルスに感染しにくく、重症化もしにくい

・子どもからの感染、子ども同士での感染もとても少ない

というこれまでに明らかになってきた事実から、感染している人のくしゃみや咳に含まれる飛まつを直接浴びないという観点からは、マスクをすることの利点はあるかと思いますが、小さな子どもでは現実的ではないと思われます。

子どもの患者のほとんどは、家庭内において保護者から感染していますので保護者の方が感染しないこと、感染した方から 2 メートル以上の距離を保つことが子どもの感染予防につながります。

また、ウイルスに汚染されたおもちゃや本などに触れた手で、口や鼻、目を触ることで感染しますので、手洗いや消毒も大事です。

Q3)

・ 2 歳未満としたのは何故でしょうか。

・ 3 歳からの園児や小学生なら問題ないと捉えてよいでしょうか。

A)

・ 乳幼児突然死症候群（SIDS）の増加がまず懸念されます。

多くは 1 歳までの乳児で発症しますが、それ以降の報告もあり、2 歳までの注意は必要だと考えます。

また、言葉で伝えることがまだ未熟な 2 歳未満では、息苦しさを感ずいても伝えられず、周

囲の大人もマスクのために表情を読み取りにくくなります。

・2才以上でのマスク着用に問題がないとは言えません。

特に暑くなる季節は熱中症の心配があります。

1日中マスクをしていたらそれ自体が不衛生になり、かぶれ等も増えています。

表情が見えないため健康観察がしにくいので、気分が悪いなど体調不良を言葉で訴えにくい幼児に強要することは望ましくないと考えます。

小学生でも「暑くて嫌だ、気分が悪い」という子どもの訴えを尊重することが大切です。

2才未満のマスクは危険、3才以上も強要はしない、ことが重要です。

子ども間での感染はおこりにくく、またおきても無症状か軽症で済んでいます。

Q4)

・熱中症との関係で、園児や児童のマスク着用について、一般的に注意すべき点があれば改めてアドバイスをいただきたいです

A)

息を吐き出すことは熱を体外へ逃がすことでもあります。

暑さの中、運動時のマスクなどはとても危険だと考えます。

スポーツ庁は体育の授業でのマスクは不要としています。

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/hakusho/nc/jsa_00011.html

Q5)

・マスクをさせるにあたって、保護者が理解しておくべき「子供と大人の体の仕組みの違いについて（呼吸の仕組みや生活スタイルにおける注意点）」

A)

マスクの基本的知識を整理していただきたいです。

マスクはウイルス粒子をブロックすることはできません。

マスクは会話の際などに、「人と人との間でのツバ（唾液）を介した飛沫感染」を防ぎます。

唾のかからない距離で人から離れているときにマスクをしても意味はありません。

米国 CDC は「マスクよりも 2m の距離を置く方が有効」としています。

子どもの呼吸器の未熟さについては以下が分かりやすいと思います。

<https://www.kango-roo.com/learning/4600/> の図 1,2、表 1

2歳未満は呼吸機能がまだ未熟です。

息を吸う際にマスクが鼻、口をふさぐと、より大きな吸う力が必要になりますが、呼吸筋

の未熟性によって十分な呼吸ができなくなることで低酸素状態になったり、呼吸停止による乳幼児突然死症候群（SIDS）のリスクが高まります。

Q6)

・三密の場面での対策や、マスクに代用できるものなどありましたら教えてください

A)

マスクはウイルス粒子をブロックすることはできません。

ヒト-ヒト間でのツバ（唾液）による飛沫感染を予防することしかできません。

マスクよりもヒト-ヒト間隔を2m以上あける方が有効と米国CDC（疾病管理予防センター）は発表しています。

子どもからの感染はとても少ないのに、呼吸をしているだけの乳幼児からの感染を心配することは非科学的です。

泣いたりおしゃべりしている子どもは、保護者向けにだっこしてあげれば周囲へのエチケットとして十分だと考えます。

保護者や周囲の不安が強い場合は、大人の多く集まる人混みを避けることが重要です。

集会などでは、マスクをしていない子どもからの感染の不安を訴える方々のために、小さな子ども連れの保護者専用区画を設けて一般と空間隔離することも良いかもしれません。

Q7)

・フェイスシールドについてはどう捉えたら良いか

A)

<これまでに分かった子どものコロナウイルス感染症の特徴 >の通り、

- ・子どもでは感染しても、無症状か軽症が圧倒的に多く、健康な子どもの重症例は少ない
- ・これまで「子どもから大人」、「子どもから子ども」の伝播の報告は極めて少ない。

のです。

子どもだけの集団でそこまでして感染防御を考える必要はないと考えます。

緊急事態宣言前後でも園学校での症状がある患者の集団発生は今のところ全く報告がありません。

緊急事態宣言解除後の状況を迅速に分析して、早期に過剰な予防策を減じていくことは子どもの健全な心の発達にも重要だと考えます。

夏を迎えると、熱中症のリスクの方がはるかに高くなると思います。

Q8)

「マスク警察」など、マスクをつけずに外出している人に厳しい目を向ける人たちがいるほか、「2歳未満の子どもにマスクをつけさせることが危険」と理解している人ばかりではありません。どうしても2歳未満の子どもを連れて外出しなければならない親の中には、「マスクをさせたくはないが、人目が気になる」と後ろめたい気持ちを抱えている人もいます。

そうした場合に、後ろめたさを多少でも和らげられる方法がありますか。

A)

医学的には、これまで「子どもから大人」、「子どもから子ども」の感染の報告は極めて少ないですが、現在のような社会状況ですから、そのような気疲れはよく理解できます。

人と人が2m以内に近づくような状況では、

- ・ベビーカーのシェード（日よけ）などを出す、
 - ・抱っこをしている場合は親向きに抱いて他人に顔を向けさせない、
- などが考えられますが、一番は外では人との距離を保つことです。

CDCも「マスクはソーシャル・ディスタンスの代わりにはならない」と注意を呼びかけています。

Q9)

「2歳未満の子供のマスク着用」について、今後、啓発活動などをする予定はあるか？

A)

日本小児科医会メッセージに対して寄せられる沢山の質問にお答えし、メディアの皆様へ情報発信していただくことこそ啓発活動だと考えています。

マスクの事だけでなく、「子どもの新型コロナウイルス感染症の特徴」をぜひお広めいただき、科学的根拠のない不安にさらされている保護者の皆様を少しでも安心させてあげてください。

どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、

科学的根拠のない不安に駆られて、子どもたちへ向けられる大人のまなざしが温かさを失ってしまうことが、今の日本の子どもたちにとって何より恐ろしい事態だと懸念しています。